

復刻版 救世

全2巻・別冊1

体裁—A5判・B4判/上製本/総762頁

収録内容—一八九五(明治二八)年三月〜一八九六(明治二九)年六月

〔第一次〕

一八九九(明治三二)年一〇月〜一九一〇(明治四四)年四月

別冊—解説・総目次・索引(分売価格1,000円+税)

ISBN 978-4-18350-1699-9

解説—和田敦彦(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

推薦—坂口満宏(京都女子大学文学部教授)

竹内 洋(関西大学東京センター長)

出村 彰(東北学院大学名誉教授)

原本提供—財団法人 日本力行会

刊行—2012年7月

価格—本体揃価格48,000円+税

ISBN 978-4-18350-1699-1



関連図書のご案内

基督教青年同盟(YMCA)発行(明治22〜23年刊)

復刻版 基督教青年 全1巻

近代日本の基督教勃興期に創刊された関西の基督教青年同盟機関誌。廃娼運動を推進し、西日本の教界事情を丁寧に報じた、近代キリスト教史研究の貴重資料である。

●解説(滝澤民夫)・総目次・索引付き

●推薦(細井勇)

●A5判・上製・約400頁・定価18,000円

日本救世軍編(明治28年〜昭和23年刊)

復刻版 ときのこゑ 全21巻・補巻1・別冊1

日本救世軍の機関誌である本誌は、名高い娼妓自由廃業運動と救済活動、生活困窮者・無宿者・刑余者対策、結核療養所創設、災害救済等、日本の社会福祉の歩みの記録である。社会事業史・女性史・日本キリスト教史研究必須の資料。

●補巻II「日本救世新聞」朝のひかり「のど書」

●別冊II解説(室田保夫)・総目次・索引 全2巻

●推薦II朝野洋・一番ヶ瀬康子・杉井六郎・高橋喜久江・山室徳子

●A3・B4・A4判・上製・函入・総9,042頁・揃定価400,000円

陽其二・堀越修一郎ほか編(明治10〜31年刊)

復刻版 穎才新誌 全20巻・別冊1

本誌は自由民権運動のただ中に創刊された全国的規模の投稿雑誌の先駆である。「明治文学の幼稚園」と呼ばれるほど、のちに多くの作家、政治家、学者を輩出した。当時の文化・社会状況を体現する第一級資料。

●別冊II解説(上笠一郎)・総目次・索引

●推薦II大久保利謙・上笠一郎・唐澤富太郎・佐藤秀夫・久木幸男・堀越克明・本田和子

●B5判・上製・総9,732頁・揃定価460,000円

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3881-2443
フアクシ03-3812-4464
振替001600294084

『救世』は、日本力行会を設立した島貫兵太夫が、一八九五(明治二八)年に創刊した伝道誌である。キリスト教の伝道活動、事業についての論説、報告を主に伝え、第一次(明治二八年三月〜同二九年六月)、第二次(明治三二年一〇月〜同四四年四月)が刊行された。日本力行会の名称は中国の古語「苦学力行」に由来し、苦学生の救済を端緒としており、苦学生の情報も豊富に掲載されている。また、日本力行会は救済の地を米国に拓き、苦学生の渡米を勧めながら『渡米新報』を刊行、その後明治四二年五月に『救世』は『渡米新報』を吸収、そのため海外事情や海外在住会員の情報が豊富に掲載されるようになる。

現在、財団法人日本力行会所蔵の五二号分のみが確認されている稀観書である。明治期キリスト教史、教育史、移民史を補完する重要資料として復刻する。

日本力行会(島貫兵太夫 初代会長) 発行

復刻版

救世

全2巻・別冊1

●収録内容—明治28年3月〜明治29年6月(第一次)

明治32年10月〜明治44年4月(第二次)

●体裁—A5判・B4判/上製本/総762頁

●別冊—解説・総目次・索引(分売価格1,000円+税)

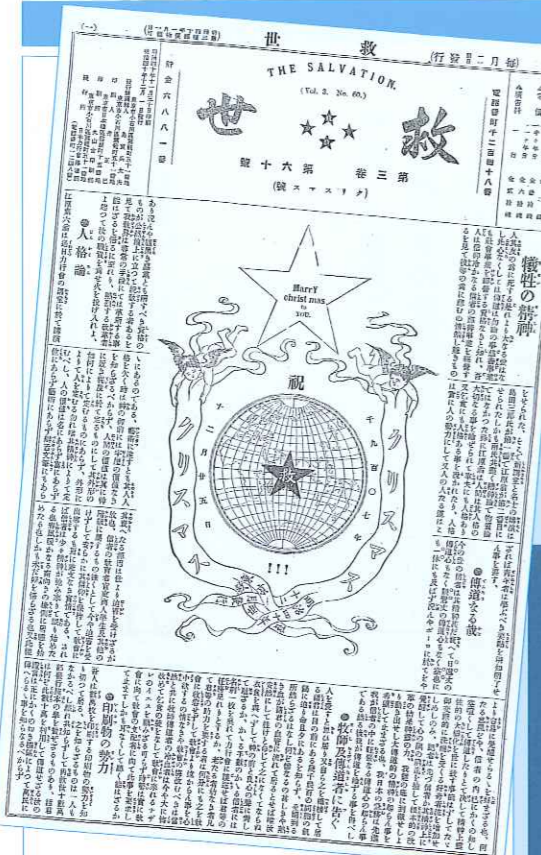
●解説—和田敦彦(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

●推薦—坂口満宏/竹内洋/出村彰

●原本提供—財団法人 日本力行会

●刊行—2012年7月

●価格—本体揃価格48,000円+税



『救世』は移民情報の宝庫

坂口満宏

初めて『救世』を手にしたのは、一九八五年の五月だった。同志社大学の移民研究プロジェクトの一つとして、日本力行会が発行していた新聞・雑誌類を調べあげ、そのすべてをマイクロフィルムに収めるという準備作業の場であった。

その時の取材ノートを繰りかえしてみると、『救世』には雑誌型と新聞型の二種類ありとの書き込みがある。今回の復刻において第一次『救世』とされたものが前者で、第二次とされたものが後者にあたる。さらに「一九〇九年の六月頃から海外事情、渡米記事が増えてくる」とある。日本力行会では、一九〇七年五月から二年間、表紙の色も鮮やかな『渡米新報』を発行していたが、そこに見られた「渡米実地通信」や世界各地で「苦学力行」していた会員たちの「奮闘」記事は「救世」へと一本化されていたからだ。『救世』は移民情報の宝庫となっていた。

これまで『救世』はもとより、日本力行会が発行していた新聞・雑誌類の調査といえ、力行会に泊まり込んで実物を調べるか、一部の研究機関が収集したものを閲覧するか方法がなかった。そうした稀な書物が身近な書棚に並べられることは、この上ない幸運だ。本書の復刻を機に、近代日本にあって海外への移住や出稼ぎ、留学という行動がどれほど身近な選択肢であったかということ、そしてかかる行動を喚起していた日本力行会のメディアエーター（仲介者）としての歴史的な役割も明らかにされていくことだろう。

（京都女子大学文学部教授）

スーパードラス社会下の

青年の格闘と福音 竹内洋

家族に資力もないし、コネもない裸一貫だが、なんとかして上級学校に進学して夢を実現したい。そのために働きながら学校に通いたい。これが苦学である。苦学は、明治三〇年代からブームになる。『宮本武蔵』などの名作で有名になった国民作家吉川英治も明治四三年に上京苦学を決意している。苦学こそが貧困な青年に夢をあたる手立てだった。こんなブームに便乗しての悪徳苦学斡旋業者もでてきたが、そんな時代に、信仰とともに苦学生希望者に職業や学校を紹介し、援助した組織があった。力行会である。

力行会は、明治三〇年に東京労働会として設立された。最盛期の明治四〇年前後には会員は、六千人以上いた。その創始者が島貫兵太夫（一八六六―一九一三）である。島貫は『新苦学法』『力行奮闘録』などの著書のほかに『救世』という雑誌（のち新聞形式）を発行した。『救世』にはキリスト教の布教とともに、「苦学生の手」などの苦学生への応援記事が掲載されている。渡米を奨励した力行会をつうじて海外に渡った人々からの近況も掲載されている。苦学希望者からの質問欄（『苦学就職問答』）もある。明治というスーパードラス社会での青年の未来夢にむけての格闘、そのための福音となった島貫の社会事業家としての思想と実践が胸を打つ。日本教育史はもとより近代日本史研究になくてはならない貴重な史料である。

（教育社会学者・関西大学東京センター長）

復刻版『救世』推薦の言葉

明治キリスト者の壮志

救霊と救世の祈り 出村彰

島貫兵太夫（一八六六〔慶応二〕―一九一三〔大正二〕）は、宮城県岩沼の生まれ。辛苦の末に小学校教諭となるが、この頃キリスト教に入信。押川方義に私淑、十八歳で給費生として仙台神学校（現在の東北学院）に入学し、一八九四年、第一回卒業生となってキリスト教伝道の途に着く。もう一人の創立者、ドイツ改革派の宣教師ホーイは、本国宛ての書簡の中で、島貫を「深い霊性の持ち主」として推挙している。

一八九五年、同教派が東京に設立した元大工町教会（後の神田教会）牧師に就任する。しかし、既に神学校在学中から頭わだつた「救霊・救世」の志は、ただに説教によって講壇を墨守するに留まることを許さなかった。神学校の卒業演説でも次のように述べていた。「人間は肉のみのものではないように霊のみのものではない。故に霊の救済が必要なら肉の救済も度外視できるものではない。」

島貫兵太夫が着任早々の同年三月、僅かな俸給を全額投じて創刊したのが『救世』だった。刊行の辞にはこうある。「何故に発行するやと問ふものあらば伝道の為に発行すと答へんのみ、即ち伝道事業の進歩発達を謀らんが為に発行するものなり。」

もつとも、ここで「伝道」とは単に魂の救い、極言すれば、いわゆる「安心立命の境地」への教導というだけではない。島貫兵太夫の視野は伝道者養成から東洋伝道、日本キリスト教の自給自立、貧窮者・苦学生の救済、さらには、やがて北・南米への海外移民の道を開く日本力行会の設立など、留まることを知らなかった。

四七歳で他界するまで、島貫兵太夫は多数の著述を公にしたが、今では国立国会図書館でさえも所蔵は数冊にすぎず、僅かに近代デジタルライブラリーによってその片鱗が窺われるのみである。そもそも宗教とは、キリスト教とは、伝道とは何なのか厳しく問い直される現今、不二出版が『救世』を復刻する意義は大である。思えば、聖書においても使徒パウロの言葉としてこうある。「あなたがたの霊も魂も体も……守られるように祈る」（テサロニケ一、五章二三節）。この祈りに沿って生涯を尽瘁したのが、島貫兵太夫だった。本企画が広く受け入れられることを、切願してやまない。

（東北学院大学名誉教授）

島貫兵太夫 略年譜



写真：学校法人東北学院所蔵

島貫兵太夫

（一八六六―一九一三）

- 1866年 伊達藩士の末裔である父島貫資澄、母よしの長男として岩沼で出生
- 1882年 小学校卒業後、小川村小学校代用教員をつとめる
- 1885年 仙台でキリスト教伝道を行っていた押川方義の洗礼を受ける
- 1886年 押川方義、ウィリアム・ホーイが設立した仙台神学校（現東北学院の前身）に入学。「逆境、貧者に対する救済」に傾注、東北六県の無銭伝道士「東北救世軍」を結成し伝道
- 1893年 仙台神学校普通科を卒業。東京での「貧民伝道」を志すが、押川の勧めで東北学院（前年改称）英語神学部に入信、神学研究の傍ら貧困者救済の伝道に努める
- 1894年 神学部卒業。卒業論文は「東洋の伝道と救貧問題」。11月徒歩で上京
- 1895年 日本橋区元大工町の教会牧師に就任。3月伝道誌『救世』を発刊。「天皇陛下に従ふ事は神様の御意」であるとする軍人向けの携帯図書「軍人と基督教」（東京救世社）を刊行
- 1897年 新年に救世軍新年伝道隊と出会い一念発起、苦学生救済に自宅を開放し「東京労働会」を創立（のち東京精勤会と改称）
- 1898年 米全国各地で講演と視察を終え帰国後、米国内での苦学を奨励、「渡米部」を設置
- 1900年 文京区小石川に事務所を移転し「日本力行会」と改称
- 1902年 「渡米案内」を刊行し、苦学生らの渡米を奨励
- 1903年 機関紙『力行』発刊
- 1907年 5月『渡米新報』発刊。10月大講堂落成
- 1908年 力行女学校設立認可、渡米女子の教育を始める。政府の渡米制限で会員が減少、窮状打開のため帰郷する車中で「力行奮闘の歌」（後に会歌）を作成
- 1909年 神田教会牧師を辞任、力行教会設立
- 1913年 9月転地先の鎌倉で永眠。享年四十七歳

第一次・第14号(1896年6月15日発行)

第二次・第6巻第85号(1910年2月1日発行)



合衆國大統領... 外務省... 安部... 夏期学校... 傳道... 大志... 度量豆の如し... 仙臺の労働會を思ふ... 白樂天道徳論... 故ツル夫人... 創世記三章... 至四... 教界之風景... 雜録... 朝野風俗... 細君方へ一言... 雜誌評論

救世

本誌毎月十五日發兌

本誌毎月十五日發兌

號四第

次目

傳道	外務省報告...
傳道	安部...
傳道	夏期學校...
傳道	大志...
傳道	度量豆の如し...
傳道	仙臺の労働會を思ふ...
傳道	白樂天道徳論...
傳道	故ツル夫人...
傳道	創世記三章...
傳道	至四...
傳道	教界之風景...
傳道	雜録...
傳道	朝野風俗...
傳道	細君方へ一言...
傳道	雜誌評論...

東京救世社發行

救世 第一號

第一次・第1号(1895年3月3日発行)

傳道

海外教育會を論ず



苦學法 (實地調査)

苦學法(實地調査) 一、苦學の目的... 二、苦學の方法... 三、苦學の注意...

新苦學法

日本力行會會長高島武夫大新著

新苦學法 有為の人生の貧乏なる人生を同歩すべき事... 如何に苦學の法を指導するに當り...

社

警區尾張町

社

東京救世社發行

第二次・第7巻第97号(1911年2月1日発行)

収録巻号一覧

巻号数	発行年月日
第1号	1895(明治28)年3月3日
第2号	1895(明治28)年4月17日
第3号	1895(明治28)年5月15日
第4号	1895(明治28)年6月15日
第5号	1895(明治28)年7月15日
第6号	1895(明治28)年8月15日
第7号	1895(明治28)年9月15日
第8号	1895(明治28)年10月15日
第9号	1895(明治28)年11月15日
第10号	1896(明治29)年1月15日
第11号	1896(明治29)年2月15日
第12号	1896(明治29)年3月15日
第13号	1896(明治29)年5月15日
第14号	1896(明治29)年6月15日
第1号	1899(明治32)年10月13日
第7号	1900(明治33)年5月16日
第13号	1901(明治34)年1月24日
第3巻第50号	1907(明治40)年2月1日
第3巻第57号	1907(明治40)年9月1日
第3巻第60号	1907(明治40)年12月1日
第4巻第62号	1908(明治41)年2月1日
第4巻第63号	1908(明治41)年3月1日
第4巻第65号	1908(明治41)年5月1日
第4巻第68号	1908(明治41)年8月1日
第4巻第69号	1908(明治41)年9月1日
第4巻第70号	1908(明治41)年10月1日
第4巻第71号	1908(明治41)年11月1日
第4巻第72号	1908(明治41)年12月1日
第5巻第73号	1909(明治42)年1月1日
第5巻第74号	1909(明治42)年2月1日
第5巻第75号	1909(明治42)年3月1日
第5巻第76号	1909(明治42)年4月1日
第5巻第78号	1909(明治42)年6月10日
第5巻第79号	1909(明治42)年7月10日
第5巻第81号	1909(明治42)年10月10日
第5巻第82号	1909(明治42)年11月10日
第5巻第83号	1909(明治42)年12月10日
第6巻第85号	1910(明治43)年2月1日
第6巻第86号	1910(明治43)年3月1日
第6巻第87号	1910(明治43)年4月1日
第6巻第88号	1910(明治43)年5月1日
第6巻第88号附録	
第6巻第89号	1910(明治43)年6月1日
第6巻第89号附録	
第6巻第90号	1910(明治43)年7月1日
第6巻第90号附録	
第6巻第91号	1910(明治43)年8月1日
第6巻第91号附録	
第6巻第92号	1910(明治43)年9月1日
第6巻第93号	1910(明治43)年10月1日
第6巻第93号附録	
第6巻第94号	1910(明治43)年11月1日
第6巻第95号	1910(明治43)年12月1日
第6巻第95号附録	
第7巻第96号	1911(明治44)年1月1日
第7巻第97号	1911(明治44)年2月1日
第7巻第98号	1911(明治44)年3月1日
第7巻第99号	1911(明治44)年4月1日